

# 株式会社トヨタエンタプライズ 「SDGs宣言」 協働策定報告書 2021

株式会社トヨタエンタプライズ  
一般社団法人 ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン

2021年7月1日



# 目次

1. はじめに	1
2. 協働策定プロジェクト概要	2
3. 経営者のコミットメント	2
4. トヨタエンタプライズのSDGs	3
4.1. トヨタエンタプライズの「SDGs宣言」	4
4.2. SDGs推進体制	5
5. 「SDGs宣言」策定のプロセス	5
6. SDGsに貢献する社内取組と事業事例	10
7. 2030年に向けた今後のステップ	16
8. 「SDGs宣言」協働策定プロジェクトのレビューコメント	17
9. おわりに	17

# 1. はじめに

株式会社トヨタエンタプライズ<sup>※1</sup>（以下、TEPと記載）は、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, 以下、SDGsと記載）への貢献を推進していくため、人権課題をはじめとする社会課題の解決を目的として活動する非政府組織（NGO）である一般社団法人「ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン<sup>※2</sup>（以下、ASSCと記載）」に「SDGs宣言」の協働策定を依頼しました。

本報告書は、「SDGs宣言」協働策定プロジェクト（以下、本プロジェクトと記載）の実施内容の報告を目的とし、TEPとASSCの共著にて作成しています。

TEPが「SDGs宣言」としてSDGsへの貢献を明文化するに至った背景は、主に3点です。

- ① TEPの主要な出資会社であるトヨタ自動車株式会社がSDGsやカーボンニュートラルへの取組を強化していること
- ② 2021年4月1日に豊田共栄サービス株式会社と合併し、新たな従業員を迎えたこと
- ③ 外国人労働者の就労期間中の各種サポート（通訳、寮・社宅の手配支援等）事業を開始する予定があること

上述した3点を踏まえ、TEPが行う事業を通じて、全社一丸となり「持続可能な社会の構築への貢献」に向かう社内風土の醸成と行動することが必要と考え、「SDGs宣言」を策定しました。

TEPは1952年に損害保険代理業を開始し、現在は、社会のニーズを起点に施設管理事業、警備事業、人材派遣事業、土地活用事業、自動車開発支援事業など多岐にわたる事業を展開しています。多様な事業活動により社会を支えているTEPは、事業を展開していく上で人材育成や環境問題への対応など関連する個々の課題に取り組んできましたが、それらを俯瞰して総合的に、また中長期の視点で、「事業活動を通じてどのようにSDGsに貢献できるか」を明確にした取組には至っていませんでした。

本プロジェクトにおいて、TEPは全事業活動や業務、社内方針や規定、全社で推進する社会課題への取組や社会貢献活動（以下、全社取組と記載）等、あらゆる情報をASSCと共有し、SDGsへの貢献に関して検討を重ねました。提供された情報を基に「SDGs宣言」を策定する際の全てのプロセスにおいて、TEPとASSCが検討を重ね、「TEPの全事業活動を通じて、持続可能な社会の構築」の実現可能性を再考したことは、双方にとって意義深いものとなりました。また、TEPが「SDGs宣言」を基礎として、全事業活動を推進することは、「持続可能な社会の構築の実現」に大きく貢献するものと考えます。

※1. <https://www.toyota-ep.co.jp/>

※2. <https://g-assc.org/>

## 2. 協働策定プロジェクト概要

TEPとASSCによる本プロジェクトは、2021年1月の「SDGs推進事務局」の発足からプロジェクトを開始しています。SDGs推進事務局の定例会議にASSCが3カ月間伴走する形式で、TEPの「SDGs宣言」を策定し、2021年4月1日に社内宣言をしました。

本プロジェクトでは、TEPの企業理念・行動指針<sup>※3</sup>、全事業活動と全社取組、SDGs(17ゴール及び169ターゲット)<sup>※4</sup>を照らし合わせ整理した後、TEPが貢献できる11のSDGsゴールを特定しました。その中で貢献度が高い5つの「最優先ゴール」、それ以外を6つの「優先ゴール」と位置づけました。その後、「最優先と優先ゴール」に対して、どのように貢献するかを明確にするために、独自に「TEP19のターゲット」を設定し、3つの宣言に集約して策定いたしました。

## 3. 経営者のコミットメント

企業は事業活動に必要な資源や人材などを社会に依存しており、当社の企業としての存続もまた、安定した社会の上にあります。そして、世界が持続可能な社会であってこそ、その成長を描くことができます。

当社は、1952年の設立より、お客様各位の業務拡大、アウトソーシング化とともに、仕事・役割を拡大し成長を続けてきました。社会・人々のニーズをくみ取り事業に反映させてきた当社にとって、社会や人々との良好な信頼関係を築き、発展していくことが当社の理念である、『「企業活動」や「人々の生活」をサポートすることで社会に貢献する』ことの第一歩と考えています。日本を含む世界情勢が強い不透明・不安定要因を抱えている今、当社でもSDGsの視点で事業活動をさらに推進していくために、社内に向けた宣言と浸透活動を経て、7月1日に社外に向けて「SDGs宣言」として明文化しました。



当社にとってSDGsの達成に向けた取組は、決して新たな取組ではありませんが、今回の「SDGs宣言」を、事業を行う上での重要な共通言語として位置づけ、事業活動を通じた豊かな社会と人々の生活の実現に積極的に取り組んでまいります。

私たちに求められる仕事や役割も日々変化し「要望に確実に応える仕事」から「価値を創造し“一歩先”を提案する仕事」への変革が求められています。SDGs宣言を機に、カーボンニュートラルなど世の中の流れやニーズを先取りし、多種多様なサービスをスピード感を持って考動、想像しながら提供し続けることで、社会とともに成長し続け、お客様・社会・従業員の「幸せ」を実現できる会社を目指してまいります。

株式会社トヨタエンタプライズ 代表取締役社長 高瀬由紀夫

※3. [https://www.toyota-ep.co.jp/company\\_outline/corporate\\_philosophy/](https://www.toyota-ep.co.jp/company_outline/corporate_philosophy/)

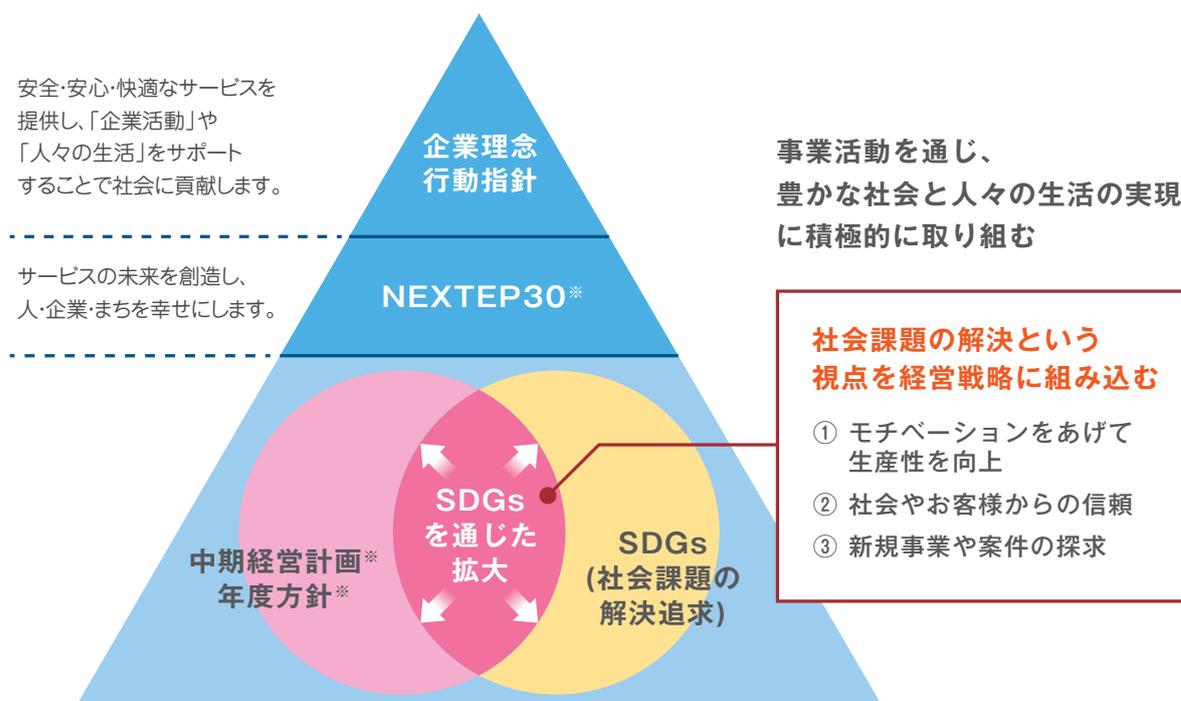
※4. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html>

## 4. トヨタエンタプライズのSDGs

TEPの企業理念は、第1に「安全・安心・快適なサービスを提供し、「企業活動」や「人々の生活」をサポートすることで社会に貢献する」と掲げています。この企業理念の基に創業以来、人々や社会のニーズに応え、役割を拡大し成長を続けています。

あらゆる社会の課題を捉え、本「SDGs宣言」を策定し全従業員が認識することで、社会課題の解決という意識を持って幅広い事業活動を行うことは、SDGsが目指す「持続可能な社会の実現」に貢献するものと考えます。

### TEP企業理念・方針とSDGsの位置づけ



※NEXTEP30及び中期経営計画、年度方針についてはTEP社内従業員を対象としており、社外公開はしていません。

## 4.1. トヨタエンタプライズの「SDGs宣言」

当社は「ありがとう!」を喜びに、をモットーに、関係する全ての方々にとって大切なパートナーとなることを目指して安全・安心・快適なサービスを提供し、「企業活動」や「人々の生活」のサポートによる社会への貢献に努めてまいりました。それらの活動を通じて培ってきたカイゼン力で持続可能な世界を実現するために国連が採択した「SDGs」を、重要な手段・目標と捉え、豊かな社会と人々の生活の実現に取り組んでまいります。

### 宣言1) 健康と安全の維持

自社の活動を通じて安全衛生・交通安全活動を行い、サプライヤーを含む働く仲間の健康・安全意識を高め、安全・安心・快適なサービスを提供し続けます。



### 宣言2) プロ人材を増やす

必要な知識・技能・経験を持った人材の育成を推進し性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、意欲的で多様な働き方ができる会社を目指します。



### 宣言3) 環境負荷の低減

調達から廃棄までの全ての過程において、環境負荷の軽減に努め、環境に関する提案やカイゼン活動を推進します。



## 4.2. SDGs推進体制

TEPでは、SDGs関連方針の策定や施策立案、スケジュールの策定、および、社内浸透活動を実施する主管組織として2021年1月に「SDGs推進事務局」を発足し、SDGsへの取組を推進しています。また、SDGsの観点を経営戦略に統合できるよう、事業戦略会議や取締役会に活動内容を報告し、必要に応じて同会において審議を行っています。

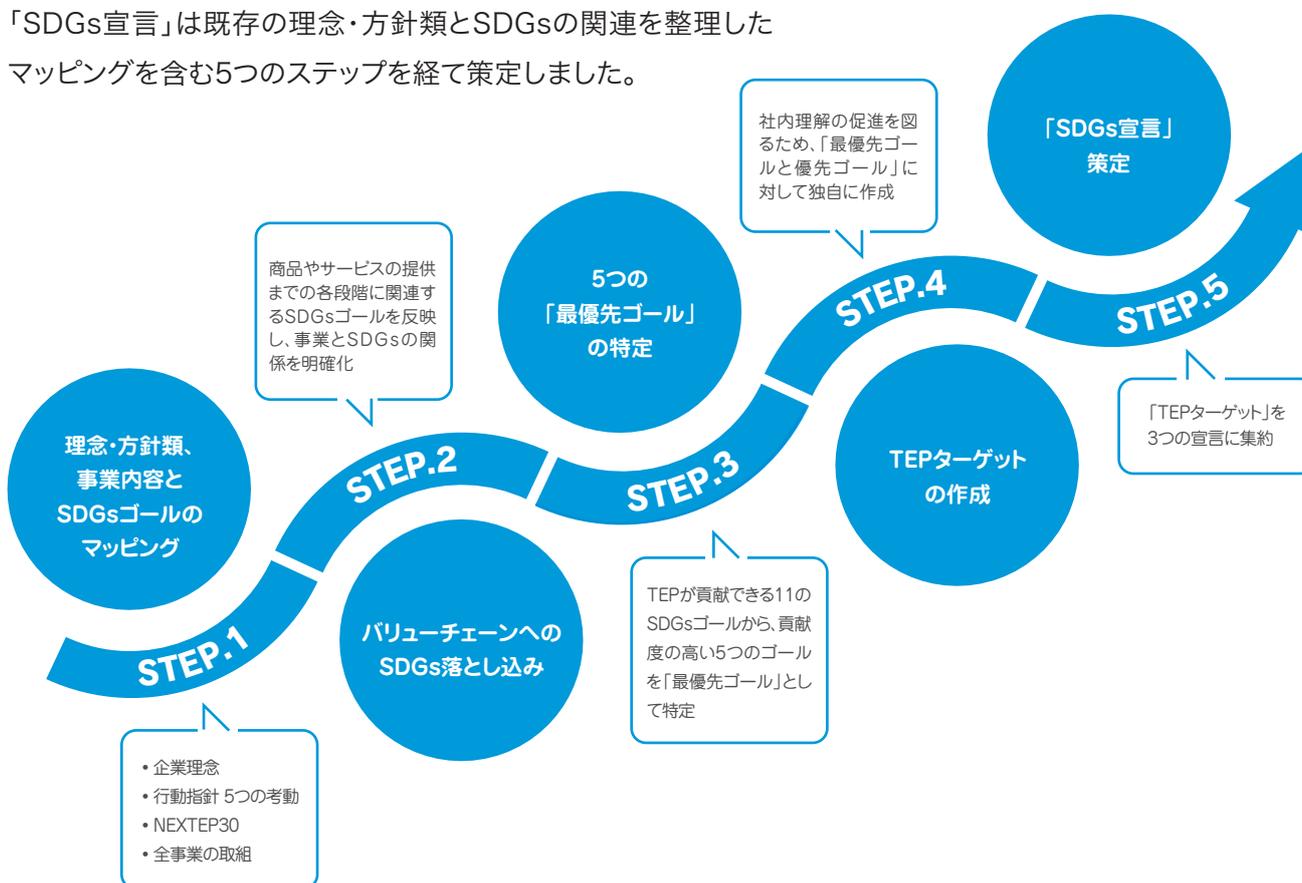
SDGs推進事務局の局長には、取締役専務執行役員を任命し、事業統括部の部長1名、同部より他2名を担当者として選任しています。また、SDGs推進事務局の定例会議には、適宜、社外有識者としてASSCが同席し、経験や知見を活かした検討や議論を行っています。

SDGsに関連する方針や取組については、SDGs推進事務局から各部署に展開され、社内全体での共通理解の構築、連携強化、社内浸透を図っています。



## 5. 「SDGs宣言」策定のプロセス

「SDGs宣言」は既存の理念・方針類とSDGsの関連を整理したマッピングを含む5つのステップを経て策定しました。



## STEP.1 理念・方針類、事業内容とSDGsゴールのマッピング

TEPの理念・方針、事業内容とSDGsの17ゴール、169ターゲットの関連を明確化するために、全事業活動の確認を行い、各部所とヒアリングを実施しました。ヒアリングでは、SDGsに貢献する事例を幅広く収集し分析しています。また、全社取組についてはSDGsとの関連性を再確認した後にマッピングしています。

## STEP.2 バリューチェーンへのSDGs落とし込み

各部所の業務についてはステークホルダーを再認識し、バリューチェーンを通じたSDGs達成計画案を策定しました。バリューチェーンを図式化し、STEP1のマッピングで抽出されたSDGsゴールとターゲットを落とし込むことで、SDGsゴールに貢献できるのかを精査しました。例えば、物販事業などでは、製造する商品(食品、プルバックカー、自動車のシートを再利用した端材グッズなど)によってバリューチェーンが異なるものについては、提供する商品やサービスを起点として確認を行っています。

## STEP.3 5つの「最優先ゴール」の特定

上述したSTEP1とSTEP2から、TEPが貢献できる11のSDGsゴールを特定しました。(図1参照)。その中でも、特に5つのゴールについては、貢献できる事業が複数あり、貢献度が高いことから、「最優先ゴール」として位置づけました。

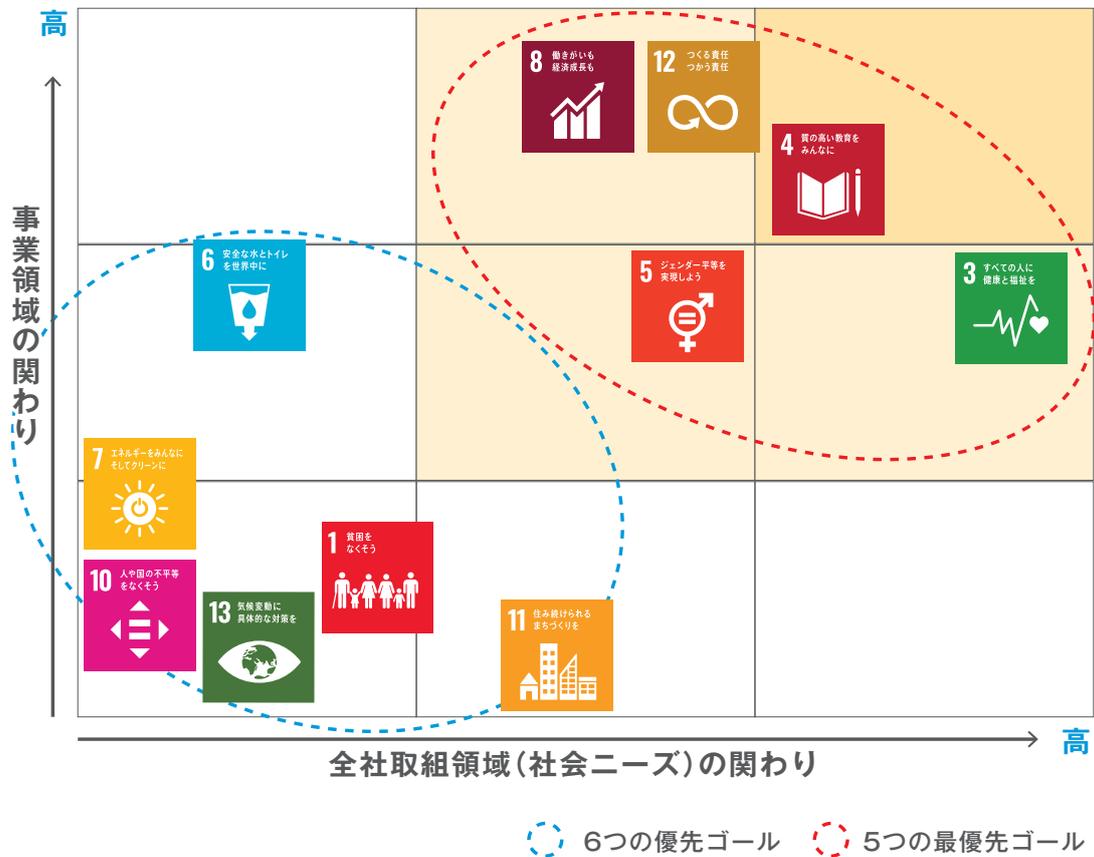
「最優先ゴール」の特定には、関連する事業数、事業の売上や従業員比率等を確認し、事業の貢献度を考査するとともに、現状の取組、今後、強化させる取組、また、社会ニーズを踏まえて検討を行いました。なお、事業及び全社取組とSDGsゴールのかかわりを相関図(図2)にまとめています。

図1)



図2)

## TEPの『事業』『全社取組』とSDGsゴールの相関図



### STEP.4 TEPターゲットの作成

TEPの従業員がSDGsを自分事として捉え、社会課題の解決や持続可能な社会への貢献という意識を持って日々の業務を推進するには、貢献するSDGsゴールを掲げるだけでは不十分だと考え、「最優先ゴール」に対して、どのように貢献するかを明確にして社内での理解を促進するために、「TEPターゲット」として19の目標を設定しました。「TEP19のターゲット」作成にあたっては、5つの「最優先ゴール」とそれらに関連するSDGsターゲットを解釈し、TEPが目指す姿を反映することで、従業員がSDGsをより身近に感じることができるよう作成しています。

## STEP.5 「SDGs宣言」策定

最後に、「TEP19のターゲット」を3つの宣言に集約して「SDGs宣言」としています。

### TEPターゲット

- ◆ 従業員の健康を確保すると共に、施設における適正な水質の確保により、感染症の発生を抑制します(3.3)
- ◆ 従業員一人一人の健康を確保し、健康に働ける環境を継続します(3.4)
- ◆ 交通事故のない世界を目指し、社内の業務上・通勤上の交通事故ゼロの達成と交通安全にかかわる事業を継続します(3.6)
- ◆ 安全活動や適正な業務委託を通じ、協力会社の健全な成長に寄与します(8.3)
- ◆ 安全衛生活動に関するサプライヤーへの指導を通じた労働環境を整備します(8.8)

▪ ()の数字はそれぞれTEPターゲットの基となるSDGsゴールとターゲットの番号を指します。

### 宣言1) 健康と安全の維持

自社の活動を通じて安全衛生・交通安全活動を行い、サプライヤーを含む働く仲間の健康・安全意識を高め、安全・安心・快適なサービスを提供し続けます。



### TEPターゲット

- ◆ 従業員一人一人の学びを後押しできる制度を活かし、資格保有者を増やします(4.3)
- ◆ プロフェッショナルとして必要な資格・知識・技能・経験を持った人材の割合を大幅に増やします(4.4)
- ◆ 技能実習生が、日本でのワーキングライフを通じて、母国での持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を修得できるようにします(4.7)
- ◆ 女性が活躍できる事業(職場)における勤務形態等への配慮をします(5.1)
- ◆ 従業員が育児・介護や家事労働に参加しやすい環境を整えます(5.4)
- ◆ カイゼン活動を通じて、業務の効率化・コスト低減をはかり、生産性を向上させます(8.2)
- ◆ 障がい者雇用及び外注業者への適正な業務委託を通じて、(働きがいのある)雇用を増やします(8.5)
- ◆ 雇用の継続、派遣や人材紹介を通じた、若者への就労機会を提供します(8.6)

▪ ()の数字はそれぞれTEPターゲットの基となるSDGsゴールとターゲットの番号を指します。

### 宣言2) プロ人材を増やす

必要な知識・技能・経験を持った人材の育成を推進し性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、意欲的で多様な働き方ができる会社を目指します。



## TEPターゲット

- ◆ 省エネの提案を通じて、お客様の取り組む持続可能な消費と生産に関する活動に寄与します(8.4)
- ◆ 省エネの提案や、使い捨て資材の削減を通じて資源の効率的な利用を進めます(12.2)
- ◆ 材料の調達から提供までに発生する、食料損失の発生を削減します(12.3)
- ◆ 環境上適正な化学物質の使用、廃棄物の適正処理を通じて、大気、水、土壌への放出を削減します(12.4)
- ◆ 廃棄物の発生抑制、再生利用、再利用の取組を進め、廃棄物の発生を削減します(12.5)
- ◆ 自治体の持続可能な公共調達の方針(総合評価方式等での要求事項)に従って、社会や環境などに配慮した入札(提案)とサービスの提供を行います(12.7)

▪ ()の数字はそれぞれTEPターゲットの基となるSDGsゴールとターゲットの番号を指します。



### 宣言3) 環境負荷の低減

調達から廃棄までの全ての過程において、環境負荷の軽減に努め、環境に関する提案やカイゼン活動を推進します。



## 6. SDGsに貢献する社内取組と事業事例

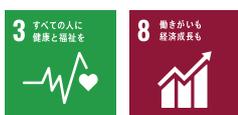
### TEP「SDGs宣言1」に関連する取組（健康と安全の維持）



#### <快適なオフィス環境とお客様の健康の維持>

お客様の業務拡大、アウトソーシング化とともに仕事・役割を拡大し成長を続け、多くの事業を有するにいたったTEPでは施設の管理を総合的に受託する中で、数多くの事業が施設を利用するお客様の健康と安全の維持につながっています。

一例として、施設内の安全をお守りし、有事には救命活動も行う警備事業。施設内外を常に清潔な状態に保ち、水や大気の質、空調管理などで快適なオフィスなどの環境をお守りするビルメンテナンス。企業に所属する皆さまにとって一番身近な「食生活改善の場」として、カロリーや塩分濃度への配慮など管理栄養士が監修するバランスのとれたメニューで健康面をサポートする社員食堂の運営などがあげられます。今後も幅広い事業でお客様の健康と安全の維持に貢献していきます。



#### <従業員の健康維持>

TEPには「人の力」を最大に活かす風土があり、「ありがとう」を喜びに多様な人材がパフォーマンスを発揮し、健康に活躍できる会社を目指しています。人によるサービスを提供する会社だからこそ、何よりもまず、従業員自身が健康と安全に対し高い意識を持つことが大切であると考え、従業員の健康増進・疾病予防活動を支援し、全社一丸となって職場や家庭で「安心して健康に働き、生活できる」環境づくりに取り組むことを2018年に「トヨタエンタプライズ 健康宣言」として宣言しました。

毎年全従業員の健康診断やストレスチェックとその結果を用いた産業医・保健師による充実したサポートに加え、スマートフォンのアプリを活用した社内ウォーキングイベントの開催等により、従業員の健康意識の向上、健康維持・体力増進に取り組んでいます。これらの取組により2021年度には健康経営に取り組む特に優良な法人をとして、日本健康会議様により健康経営優良法人2021(大規模法人部門(ホワイト500))に認定されました。

#### 全社の健康経営推進体制図

##### ① 健康経営推進最高責任者 社長

##### ② 全社安全衛生会議

役員：全社の安全衛生活動審議 報告

##### ③ 地区安全衛生会議

部所長：部・事業所の安全衛生活動審議 報告  
各職場への安全衛生方針、活動の展開

##### ④ 安全衛生委員会

安全衛生委員：各職場の安全衛生活動審議 報告  
従業員への安全衛生方針、活動の展開



### <交通事故のない世界を目指す>

TEPはモビリティ社会を実現する企業の子会社として交通事故を起こさない、起こさせないという強い信念のもと、業務・通勤ともに交通事故の撲滅を目指した活動を続けています。

発生してしまった全ての交通事故について、当事者に対する指導以外にも、全従業員が自分事として受け止め、類似の事故が繰り返し発生しないよう、その原因を共有する取組を行っています。また、過去に発生した全ての事故の傾向を把握し、「車間4秒」など具体的な予防策を周知するなど、事故の防止に努めています。

また、「通勤経路危険予知マップ」の作成や定期的な更新に加え、上司の同乗による「運転許可制度」など、交通事故撲滅に向けて様々な取組を継続的に推進しています。

## TEP「SDGs宣言2」に関連する取組 (プロ人材を増やす)



### <カイゼン活動(創意くふう・小集団活動)>

TEPでは会社モットーにお客様第一、現場第一、安全第一を掲げています。世の中の変化が従来にないスピードで起こっている昨今、従来のやり方・考え方に捉われることなく、お客様が何を望み、TEPに何を期待されているのかを的確に掴み、絶え間ないカイゼンに愚直に取り組んでいく必要があります。

TEPでは仕事の品質と効率性を徹底的に追求するとともに従業員一人ひとりが働きがいをもって業務に取り組める職場づくりを目指し、個人ごとの自主活動である「創意くふう提案活動」と、職場単位で全員参加型の「小集団改善(QC)活動」を行っています。



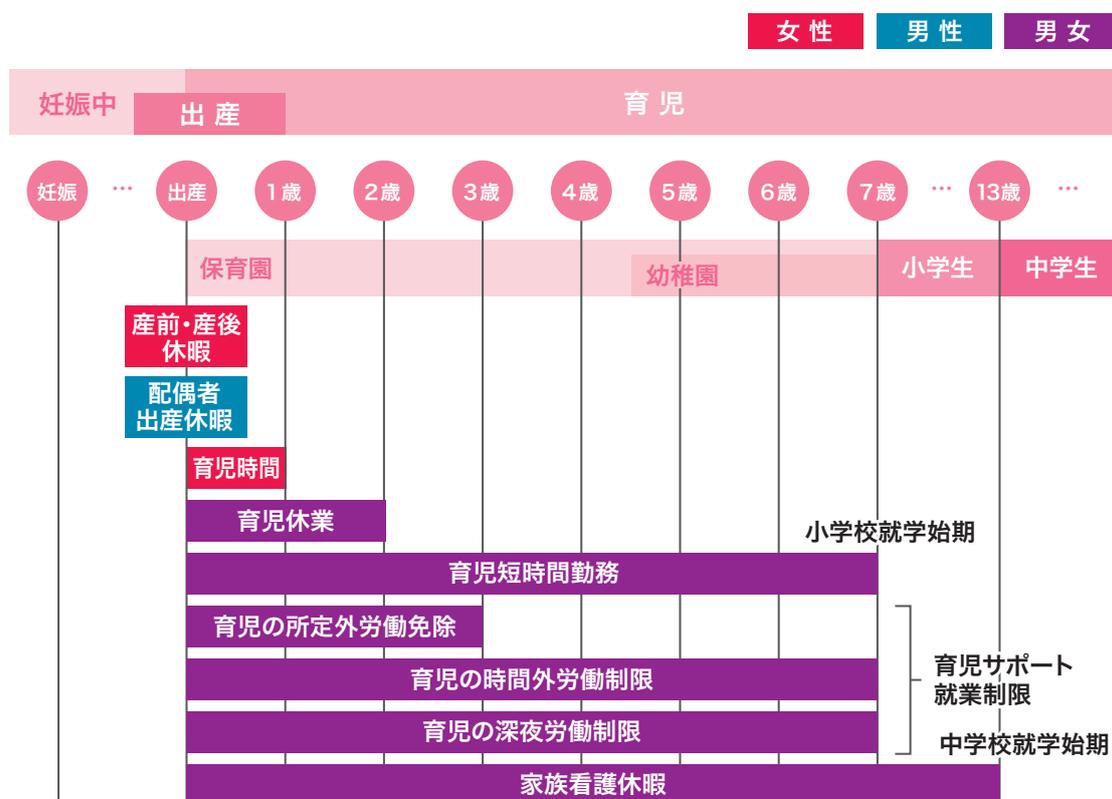
創意くふうではTEP従業員が「文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞」を2009年から13年連続で受賞しています。また、小集団改善活動においても、全社大会の優勝サークルがQCサークル東海支部愛知地区発表会ステップアップ大会で「地区長賞」を受賞するなど、どちらも社内にとどまらない活躍を見せています。



## <両立(子育て・介護等)の支援とReTEP Pass>

様々な職場で活躍する従業員に持てる能力を最大限に発揮してもらい、働き続けてもらうために、法定を上回る休暇等(育児休業、育児短時間勤務、家族看護休暇)や、TEP独自の制度(配偶者出産休暇、育児の時間外労働制限・深夜労働制限)で仕事と育児の両立をサポートしています。

また、介護や家族の転勤等、やむを得ない事情で会社を辞めざるを得なかった従業員に対し、原則、退職時の雇用区分・等級・給与・勤続年数で再入社を提供し、活躍してもらうための制度(ReTEP Pass)を設けています。



## <資格取得支援制度>

TEPは従業員一人ひとりが今後も意欲的に働き続けられる会社でありたいと考えています。従業員が自ら進んで成長やキャリアアップすることを支援するために、資格取得を通じた知識や技術習得を支援する制度を設けており、修学費用の全額、または一部について補助金を支給しています。

支給の対象資格は電気主任技術者・日商簿記・TOEICなど約80種に及び、職種や担当業務に関わらず、幅広い分野での従業員の成長をサポートしています。また、制度自体を従業員に周知し、幅広く利用してもらうために社内報を使った定期的な周知を行っています。

## TEP「SDGs宣言3」に関連する取組 (環境負荷の低減)

12 つくる責任  
つかう責任



### <省エネのご提案>

TEPではお客様の施設を重要な経営資源と捉え、施設の省エネ実現に向けて、設備の運転データを分析し、エコチューニングを実践しています。また、省エネ改修の有効性についても費用対効果の側面から適切に判断を行い、効果的なご提案を行っています。設計～施工～運用を一気通貫で携わることで、カーボンニュートラルを目指した施設全体のエネルギーマネジメントを行い、お客様とともに脱炭素社会の実現に取り組んでいきます。



12 つくる責任  
つかう責任



### <使い捨て消耗品等アメニティのエコの推進>

TEPではトヨタ自動車様をはじめ企業の社員食堂・喫茶コーナー・保養所、さらに街のレストランまで、名古屋・東京を中心に20施設以上を運営しています。また、宿泊施設としてもテラス蓼科リゾート&スパや企業様の保養所・研修所等の宿泊施設運営に携わっています。これらの施設ではお客様のおもてなしのために多くのアメニティや箸などの消耗材を必要としてきました。TEPでは割り箸から塗り箸への変更や使い切れない歯磨き粉のサイズ見直し、タオルやシーツなどの洗い替えを減らすなどの環境に配慮した活動を進めています。



12 つくる責任  
つかう責任



### <農業ごみのリサイクル>

TEPでは自治体からの指定管理として市民農園の運営を受託しており、市民の皆様が自然や農業に触れる機会を提供しています。農園の運営では、雑草の除去や栽培終了後の根株等、多くの農業副産物(農業ごみ)が発生しており、廃棄物としての処理が必要です。

TEPでは循環型の農園管理の実現を目指し、農業ごみを捨てずに回収し農園用堆肥につくり替えることで、ごみの削減に貢献しています。また、出来上がった堆肥を新たな野菜等の栽培に使用するだけでなく、園内管理における除草剤や化学肥料の不使用などを通して、オーガニック農法を推進しています。



## その他のTEPが貢献するSDGsゴール



### <フェアトレード>

TEPが直営する東山動植物園(名古屋市千種区)内のショップでは、キルギス共和国で縫製したぬいぐるみを販売しています。この商品は「フェアトレードタウンなごや応援ロゴマーク」を使用した第1号商品であり、フェアトレードの取組を通じて、開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立に貢献しております。



### <ビオトープの維持・管理>

TEPでは造園・緑地事業の一環として、お客様の敷地にあるビオトープの維持・管理をすることで、水資源の改善・回復を図っています。



### <太陽光発電の管理>

TEPではお客様施設内にある太陽光発電や太陽熱給湯設備等の管理を通じて、再生可能エネルギーへのアクセスに貢献しています。



### <技能実習性の受入>

TEPが加入するTEC協同組合様と連携して、ベトナムからの技能実習生を受け入れています。技能実習生は日本でのワーキングライフを通じて、専門的な技能や日本語の能力などを身につけ、母国の経済発展に寄与できるよう実習に取り組んでいます。

TEPは技能実習生の受入・育成を通じて、各国間の不平等の是正に貢献いたします。





### <廃棄物削減や省エネ>

TEPでは全社的なペーパーレスの推進による廃棄物を削減する取組を行っています。また、年に一度設定している「TEP地球環境月間」では環境取組のチェックリストを活用し、省エネや廃棄物削減等の取組を見直しにつなげています。



### <博物館等の緑地管理>

TEPでは環境緑化事業を通じて、博物館など公共施設内で造園や緑地の維持・管理(剪定等)を行っています。また、長年培った技能等を活かし、街路樹の剪定や、公園・緑道の維持管理へと業務範囲を広げ、住みよい街づくりへ貢献しています。



### <防災備蓄品>

TEPは全国のような地域で4,000名を超える従業員が働いています。災害等発生時に一人ひとりの命を守り早期の復旧につなげるため、全職場に災害用備蓄品と防災ヘルメットを配布しています。また、防災備蓄品の販売を通じて、お客様の災害適応力の向上に寄与しています。



### <パートナーシップの推進>

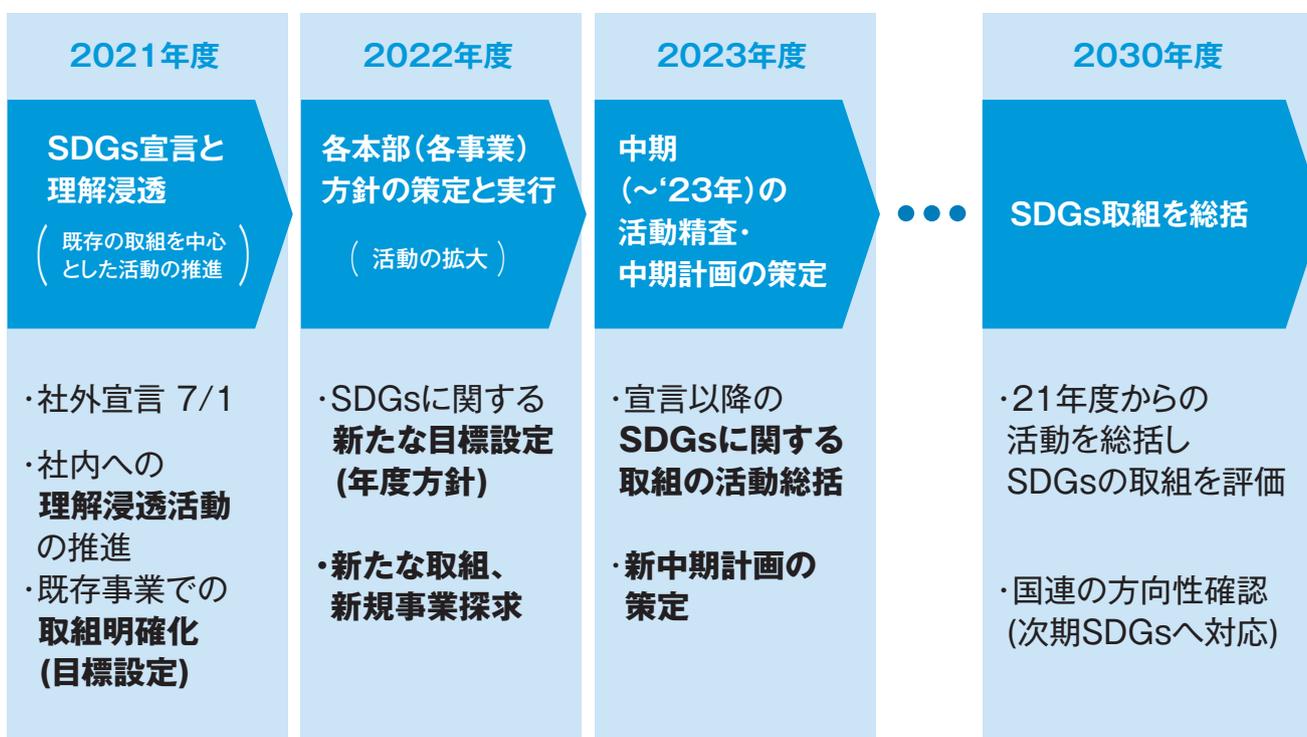
TEPはSDGsへの貢献に向けて、社外有識者(ASSC)の経験や知見を活用して推進しています。また、SDGsを推進する企業・団体様との協業を進めています。

## 7. 2030年に向けた今後のステップ

TEPは2030年にSDGsの目標達成がなされるよう、「SDGs宣言」を基礎として、事業活動を通じた取組を推進していきます。2021年度については、既存の取組を中心とした活動を継続して、従業員への理解浸透を推進いたします。

2022年度以降は、年度方針や中期経営計画にSDGsを取入れ、目標と貢献活動、また、事業活動を評価して、SDGsに寄与する活動を推進いたします。

### 中期スケジュール



## 8. 「SDGs宣言」協働策定プロジェクトのレビューコメント

持続可能な開発目標(SDGs)は、「サステナビリティ」が重要なテーマであり、貧困や労働者の人権、また気候変動や森林破壊、海洋汚染などの環境課題を含む社会課題について解決していくための世界共通の目標として17項目169のターゲットを設定しています。世界各国において、国家だけでなく、企業においても取組が求められ、その貢献が必要とされています。



このような中、TEPでは、事業とSDGs関連性を洗い出し、重要課題を明確にした上で、「SDGs宣言」を出されました。サステナビリティ活動を推進する上では、SDGsとの関連性から従業員を含むステークホルダーに理解を求め、さらなるコミュニケーション・エンゲージメントへと結びつけていくステップは非常に重要です。

今回、ASSCとSDGs宣言の策定をプロジェクトとして協働で実施、社会面・環境面を含む最重要課題について宣言を策定したことは、ステークホルダーを巻き込んだ取組として推奨されるものとなります。今後TEPがサステナビリティ活動をを進める上で、各SDGsの目標に対して、さらに明確なTEPの2030年の目標設定を行うとともに、バックキャストでマイルストーンを設定し達成を進めていくこと、さらにその他のステークホルダーとも連携をしながらさらなる協働へと進められることを期待いたします。

一般社団法人ASSC 代表理事 下田屋 毅

## 9. おわりに

私たちは創業以来、あらゆる施設の運営に携わり、多様な事業を通じて様々なお客様と触れ合い、たくさんの「ありがとう」をいただき成長してまいりました。私たちが事業を継続しながら、より良い世界を将来世代に渡していくためには、従業員一人ひとりが懸命なコミュニケーションでステークホルダーの皆様から学び続けていかねばなりません。当社は従来から推進してきた良質廉価の取組と、SDGsの視点を今まで以上に重ね合わせていくことで、今後も急速に変化する社会に柔軟に対応し、「未来の社会づくり」に貢献してまいります。

笥徹(株式会社トヨタエンタプライズ 取締役専務執行役員 SDGs推進事務局長)

本報告書にて、TEP様の「SDGs宣言」の経緯を報告させていただきました。あらためて策定プロセスを振り返ると、①サステナビリティやSDGsを理解すること、②ビジネスを変革させる、また、事業に浸透させる必要がある、③事業の継続性を同時に考えること、最低限この3つが揃わなければ、SDGsの推進を図ることは難しいと再認識いたしました。企業がサステナビリティを推進する、SDGsに貢献するということは、事業の中核に「サステナビリティ活動」と「SDGs」を据置くということになります。TEP様においては、上述した3つを理解し、持続可能な社会と事業を推進していくことになります。今後も継続的に「未来の社会づくり」の取組をしていただければと思います。

和田征樹(一般社団法人ASSC 理事)

#### 【免責事項】

TEPおよびASSCは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえ、TEPおよびASSCがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。本報告書は信頼できると思われる各種情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。TEPおよびASSCは、本報告書の論旨と一致しない他の資料を発行している、または今後発行する可能性があります。